

ホタル特集



光を放つヘイケボタル



ほたるポスター作品展(ふれあいの森)



東部小学校「ホタルワールド」の夜間開放

癒しの光 ホタル飛びかう 豊かな自然を守ります

ホタルの淡い光は見るものに癒しと安らぎを与えてくれます。

ふれあいの森ホタル養殖場で、六月二十日と二十一日の二日間「ほたる観察会」を行いました。悪天候にもかかわらず約千五百人の来場がありました。

六月二十七日には、東部小学校で「ホタルワールド」の夜間開放が行われ、約七百人の来場がありました。どちらにも多数の参加があり、町民の皆さんのホタルへの関心の高さが感じられます。

町では、昭和五十八年から自然環境保護を推進するために「ホタル飛びかう住みよい環境づくり」を目指し、町内に生息しているヘイケボタルの発生状況や生態などの調査研究を行っています。

ホタルは自然環境のバロメーターとして重要な役割を果たしています。今年も生息分布調査を、六月下旬から小中学生をはじめ多くの皆さんの協力を得て行いました。(調査結果は五ページに掲載)

今年、昨年より多くの地域でホタルが発見されました。全国各地のホタルの名所では観光

資源として、ホタル保護を行っています。但し、町のホタルへの取り組みは、自然環境保護の推進が目的です。

平成二十二年十月、生物多様性条約第十回締約国会議(COP10)が名古屋で開催されます。これは地球上の多様な生き物を守るため、世界約百九十の国と地域が集まって開催される国際会議です。生物多様性の保全と言われても、一見私たちと関係が薄いと感ずるかもしれませんが、日々の暮らしの中でできることはたくさんあります。

ホタルの淡い光に触れた時、ホタルの貴重さや命の大切さを考えさせられ、自然環境保護の大切さを痛感します。町の宝物であるホタルを守るため、「ゴミのポイ捨てをしない」、「川を汚さない」など、普段の心掛けが大切です。自然を大切にしようと思ふことがCOP10の示す「自然の恵みに感謝しよう」、「身近な自然を大切にしよう」、「環境にやさしい生活をしよう」という保全のための行動そのものです。

環境を良くするのも悪くするのも人間です。いつの時代にも人に愛されていくホタルを、誰もが守ろうと思ふ気持ちから、自然を愛する心の和が広がります。

地域環境の浄化を進め、見ると心が優しくなれるホタルと共に、命の大切さ、自然と人間の共生の大切さを後世に伝えていくことが我々の使命です。